

株式会社パスコ 関連記事情報

掲載紙：日刊建設工業新聞 掲載面：3面

発行日：2010年9月17日

最前線

道路のアセットマネジメントに期待

より良い社会基盤を考える



パスコは、4月に設立したインフラマネジメント事業部の活動を本格化、市場開拓に本腰を入れる。実績のある路面状況調査技術を使った道路のアセットマネジメント支援業務の受注拡大に取り組む。また、橋梁や上下水道、トンネルといったインフラのアセットマネジメントについても受注可能な体制づくりに着手する。「管理主体のニーズに柔軟に対応したサービスを提供していきたい」と語る坂下裕明部長にインフラマネジメント事業の今後を聞いた。

●インフラマネジメント事業部設立の狙いは。

「当社は、もともと道路の路面の調査で実績がある。舗装は10年程度が寿命といわれており、わだち掘れやひび割れ、平坦性などを調査し、適切に補修することが求められる。当社の調

パスコ インフラマネジメント事業部

坂下 裕明部長

査技術は、車を走らせながら調査できるという技術で、国土交通省や高速道路会社、自治体が発注する調査案件で多くの実績を上げてきた。この技術に基づくデータベースを使ってアセットマネジメントができないか、インフラ資産の長寿命化計画を作れないかと考え、インフラマネジメント事業部を設置することにした。

「インフラマネジメント事業部では、路面調査のほかユビキタスネットワークを使うアセットマネジメント事業も検討している。ユビキタスについては観光まちづくりなどで実績を上げつつある。路面状況の調査もユビキタスも、技術と異なるが、場所を整理して情報化するというコンセプトは同じだ」

●道路のアセットマネジメントというのはそれほどニーズがあるものなのか。

「国や高速道路会社は膨大なデータの蓄積がある。自治体については調査自体を行っていないところもある。まずは路面の健康診断というか、状態を確実に知るための調査を行い、その上で長期的な補修計画を作るべきだと思う。道路という社会基盤の品質を一定水準に保つためには継続的な健康診断を実施すべきではないだろうか」

「アセットマネジメントを導入すると、単純に維持管理コストが下がると

思いがただが、必ずしもコストが下がるわけではないというのを知ってほしい。よりベターな資産管理を、より新しい手法で行うために導入するのがアセットマネジメントだ。当社は路面調査などのデータマネジメントに実績があり、ノウハウもある。この経験を生かして、客観的なアセットマネジメントをインフラマネジメント事業部の主力に育てたい」

●具体的にどういった事業に育てようと考えているのか。

「現状、維持管理に関する業務は単年度契約が基本。こうした業務を複数年度の契約にできればと思っている。定期調査を実施し、優先順位を付けた上で補修計画を立案する。もちろん、発注者が要求するサービス水準も明確にできるようにする。費用対効果も分かりやすくなるし、ニーズはあると思う。特定エリアを対象にしてもいいし、路線を対象にしてもいい。社会基盤をより良い状態に保つにはどうしたらいいのかわからない目で考える仕事ができたいと思うている」

「上下水道や橋梁、トンネルといった他の社会基盤のアセットマネジメントにも関心はある。ただ、路面調査のような実績がないので単独でこの分野を開拓するのは難しい場合も想定される。パートナーと組んで事業領域を広げるなどの選択肢も考えていきたい」